

社会文化システム研究科

教育プログラムの名称：文化システム専攻

授与する学位の名称：修士

#### 【修了認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)】

本専攻は、所定の教育課程を修了し、修士論文の審査及び試験に合格して、以下のような能力を修得した者に修士（文学）の学位を授与する。

##### 1. 専門基礎能力

現代の多様な文化現象に関して、高度で専門的な研究を展開するために必要となる幅広く深い知識と考え方を、正確かつ体系的に理解し身につけている。

##### 2. 研究遂行能力

人文科学の専門領域における今日的課題に対し、自らの問題意識に基づいて、独力で研究を遂行できる能力を有している。

##### 3. 専門応用能力

文化を一つのシステムとして総合的に把握し、現代社会が抱える多様な文化的諸課題を解決できるよう、自らが獲得した専門的知識を活用・応用していく能力を有している。

##### 4. 社会への発信と貢献

人文科学の領域において、他者と積極的に意見を交換することを通じ、自らの研究成果を社会一般に発信する能力を獲得し、現代の知識基盤社会を多様に支える職業人としての資質を備えている。

#### 【教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)】

本専攻は、人間の認知行動や多様な文化現象を総合的なシステムの中に位置づけ、現象間の関連性を理解しつつ、現実的な文化現象の問題探求の道筋を見いだす能力を培うことを目的としている。

このような目的を達成するため、本専攻では以下のような組織的な教育・研究指導体制を編成し、学生が将来への見通しを持って研究に専念できる環境を用意している。

##### 1. 教育研究の分野と領域

本専攻には「人間科学」、「思想歴史論」、「国際文化論」という3つの教育研究分野を設け、具体的にはそれぞれ以下のような対象について教育・研究を進める体制を構築している。

「人間科学」では、「言語科学」と「心理・情報」の2つの領域に分け、人間の行動メカニズムや言語運用のルールを対象として探求を進める。「思想歴史論」では、「思想文化」と「歴史文化」の2つの領域があり、世界諸地域の思想・歴史を対象に、社会科学的な手法をも援用しつつ総合的に追究を進める。「国際文化論」は「アジア文化」と「欧米文化」との2領域に分け、広範な文化現象を総合的に探求する。

## 2. 科目編成

上記の各分野すべてにおいて、学生自身の問題意識を踏まえ、研究課題の設定・推進・解明というプロセスを着実に進めることができるよう、次のような科目編成を設けている。

指導教員の指導を継続的に受けて進める「特別研究」8単位を中心として位置づけ、講義形式の「特論」、演習形式による「特別演習」を選択必修科目として合計8単位以上、その他、実用的な情報または外国語の科目を4単位以上、さらに本研究科で開講される科目の中から自由科目として10単位以上の修得を通じて、学生が独自性ある修士論文を作成することができるよう科目を編成している。

### 【入学者受入れの方針(アドミッション・ポリシー)】

文化システム専攻では、人間の認知行動や世界の多様な文化現象を総合的なシステムとして研究することを目的としています。

また、文化システム専攻の求める学生像は以下のとおりです。

#### ◆求める学生像

- ・言語学、心理学、歴史学、文化人類学、哲学、文学など、人文科学の専門分野に関する基礎学力を有している人
- ・人間の思考・行動過程のメカニズムや世界の多様な文化現象に対して、旺盛な探究心を持つ人
- ・自分が身につけた専門的知識を、現代社会の文化的諸課題の解決に役立てたいと考えている人

#### ◆入学者選抜の基本方針

上記の【求める学生像】で示す能力等を有する人を多面的・総合的に評価するため、以下の方法により選抜します。

- (1) 一般入試（筆記試験（専門科目）、面接、出願書類を総合して判定）
- (2) 社会人入試（口述試験、出願書類を総合して判定）
- (3) 外国人留学生入試（A方式：筆記試験（専門科目）、面接、出願書類を総合して判定。B方式：筆記試験（日本語）、口述試験、出願書類を総合して判定）
- (4) 推薦入試（面接、志望理由書、研究計画書、推薦書等の出願書類を総合して判定）
- (5) 協定校（外国人留学生）推薦入試（日本語能力認定書（N1）、志望理由書、研究計画書、推薦書等の出願書類を総合して判定）